

平成 29 年度 第 2 回
「地盤工学会誌」編集委員会 運営委員会
議事録

(当日版)

日 時	平成 29 年 6 月 22 日 (木) 14 : 00 ~ 17 : 00
場 所	地盤工学会 (JGS 会館) 会議室

出席者 (敬称略)

出席 : ○ (本部), ● (電子) 欠席 : ×

会 務	氏 名	出欠	会 務	氏 名	出欠
理事・編集委員長	石川 達也	○	企画・編集G委員	浅野 将人	×
理事・前編集委員長	高橋 章浩	○	企画・編集G委員	木内 大介	×
編集副委員長	鈴木健一郎	○	企画・編集G委員	岡本 道孝	○
企画・編集グループ主査	福永 勇介	×	企画・編集G前委員	京川 裕之	○
第 I G 主査	正田 大輔	○	企画・編集G委員	金澤 伸一	×
第 II G 主査	長澤 正明	○	企画・編集G前委員	森田 年一	×
第 III G 主査	森 友宏	○	企画・編集G委員	山中 光一	×
第 III G 前主査	野村 英雄	○	企画・編集G委員(シニア)	久保 博	×
第 IV G 主査	鎌田 敏幸	○	企画・編集G委員	藤原 優	×
第 IV G 前主査	野原慎太郎	○	企画・編集G委員(学生主査)	松村 聡	○
講座委員会・幹事	中村 邦彦	○	企画・編集G前委員(学生主査)	石川 敬祐	×
講座委員会・幹事(前担当)	小林 浩二	×	企画・編集G委員(学生担当)	加島 寛章	×
北海道支部委員(企)	川口 貴之	×	企画・編集G委員(学生担当)	牛塚 太基	×
北海道支部委員(企)(前担当)	西村 聡	×	企画・編集G前委員(学生担当)	松澤 真	×
東北支部委員(II)	荻野 俊寛	×	学生編集委員(北海道)	小笠原明信	—
東北支部委員(II)(前担当)	金子 賢治	×	学生編集委員(東北)	畑下 侑輝	—
北陸支部委員(I)	大竹 雄	×	学生編集委員(北陸)	大木 拓馬	—
関東支部委員(企)	渡邊 諭	×	学生編集委員(関東)	那須 郁香	—
中部支部委員(IV)	酒井 崇之	×	学生編集委員(中部)	沖野 頌悟	—
関西支部委員(II)	木元小百合	×	学生編集委員(関西)	伊藤 真司	—
中国支部委員(III)	中村 公一	×	学生編集委員(中国)	渡上 正洋	—
中国支部委員(III)(前担当)	北出 圭介	○	学生編集委員(四国)	林 聖淳	—
四国支部委員(I)	野々村敦子	×	学生編集委員(九州)	伊藤 裕孝	—
九州支部委員(III)	古川全太郎	×			

本日の議事録担当委員 : 正田主査 (次回以降の予定 : 主査→主査)

議 題 :

1. 前回議事録(案)の確認
 - 1) 運営委員会議事録(案) (4/13) (長澤主査/メール配信済) (別紙-1)
⇒承認された。
2. 全体関係
 - 1) 理事会 (5/19), 公益出版部会 (5/8) の報告 (高橋前委員長) (別紙-2~3)
⇒理事会・公益出版部会の審議事項について議事録をもとに報告された。
 - 2) 29 年度編集委員の構成について (事務局) (別紙-4)
⇒間違い等あれば、事務局へ連絡する。
 - 3) 公益出版部 28 年度事業報告・29 年度事業計画 (高橋前委員長) (別紙-5)
⇒公益出版部 28 年度事業報告・29 年度事業計画について、学会誌の記載部分を中心に報告された。
 - 4) 公益出版部 28 年度決算・29 年度予算案 (高橋前委員長) (別紙-6)
⇒公益出版部 28 年度決算・29 年度予算案について、学会誌の記載部分を中心に報告された。
 - 5) 会誌編集方針と 30 年度年間計画 (28 年 4 月号掲載) (高橋前委員長) (別紙-7)
⇒第 19 回国際地盤工学会 (ソウル会議) について、30 年度に特集を組むのかという意見が出された。
⇒国際会議は開催月の半年後に特集を組むことが多いが、会長の意向等も踏まえることから、決定は次回以降に持ち越し

となった。

6) 「地盤工学会誌」優秀賞について (平成 15 年創設)

⇒資料をもとに説明があった。

①優秀賞について (創設の経緯)

(別紙-8)

②選定細則/これまでの受賞者

(別紙-9)

7) 読者モニターについて (平成 16 年創設: 各支部会員数で配分委嘱)

⇒資料をもとに説明があった。

・モニター制度について

(別紙-10)

8) 編集委員会規程と編集委員の業務について (高橋前委員長)

(別紙-11)

⇒資料をもとに、全体委員会・運営委員会等についての説明があった。

⇒編集作業時の確認用に、参考資料-1 が準備された。

3. 「地盤工学会誌」進捗状況について

1) 全体の進捗状況 (事務局)

(別紙-12)

⇒特に遅れはないと報告があった。

4. 担当グループからの報告および検討事項

1) 企画・編集グループ (福永主査)

①学生編集委員について

・30 年学生編集委員記事の掲載号について

⇒昨年は一昨年分の 1 編が残っていたため、1 月号から学生編集委員記事の掲載が可能であった。今年も 1 月号から掲載するためには 8 月までに記事案を作成し、9 月までに原稿を仕上げなければならないため、作業が負担になるとの報告があった。

⇒上記の理由から、本年は学生編集委員記事を 2 月から掲載することで承認された。

②特集記事以外の記事案について

・30 年担当委員

(別紙-13)

⇒承認された。

③「自由投稿原稿」について

・進捗状況

(別紙-14)

⇒報告があった。

④その他の投稿記事

・国内の動き

* 『熊本地震地盤災害調査報告会 開催報告』

(別紙-15)

⇒区分について、「学会の動き」の方が適当ではと意見が出されたが、「学会の動き」は規定上自由投稿できないため、「国内の動き」で承認された。

⇒発行は支部に変更する。

⇒掲載について承認された。

・書籍紹介

* 『自然科学の視点から考える日本民俗学』

(別紙-16)

⇒事務局より寄贈をお願いすることとした。

⇒寄贈後、運営委員会メンバーへ連絡し、メンバーが内容を確認することとした。

⇒掲載の可否については次回以降に決定することとした。

⑤「読者モニター」について

・29 年 1~4 月号: アンケート結果

(添付資料-1)

⇒P22 12 番は建設的ではないのでいい、P22 10 番は問 10 がわからないとの意見が出された。

⇒6 月中旬に添付資料 1 の各コメントを確認し、HP へ掲載するのに不適切なものがあれば事務局へ連絡する。

2) 第 1 グループ (正田主査)

・平成 29 年 9 月号について: 構成案

(別紙-17)

⇒追加した 5, 6, 7 について、公募とする。

・平成 29 年 12 月号 (合併号) について:

(別紙-18)

⇒優秀論文発表者賞の執筆者 (現在調整中) を除いて内諾済で、今後正式な依頼文を发出する。

・平成 30 年 4 月号について: 趣旨文・構成案

(別紙-19)

⇒総説 赤木先生と相談し、全依頼の場合については早めに対応する。

3) 第 2 グループ (長澤主査)

・平成 30 年 1 月号について: 構成案

(別紙-20)

⇒現在、依頼を含めて全 4 件である。

⇒事業者側が考えているものがあればよいので、国交省に書いてもらってはどうか。

⇒8 月号にも上記と同じ趣旨の記事はある。

⇒建コンなどで委員会を構成しているので、その辺に聞いてみてはどうか。

⇒記事の追加について検討する。

・平成 30 年 5 月号について：趣旨文原案 (別紙－21)

⇒以下の指摘があった。

・上から 3 行目「盛土は～広く施工されるようになりました」の一文は削除してはどうか。

・上から 8 行目「沢部や～被害や」の間に、「や」が連続するので修正する。

・下から 3 行目、「性能評価」を別に記載してはどうか。

⇒総説について龍岡先生に依頼もしくは、紹介いただく。

4) 第 3 グループ (野村前主査・森主査)

・平成 29 年 7 月号について：目次 (別紙－22)

⇒紹介があった。

・平成 29 年 10 月号について：構成案 (別紙－23)

⇒村上先生の手稿を 7 月中にいただくようにする。

⇒催促の場合は、委員長から行う。

・平成 30 年 2 月号について：趣旨文 (別紙－24)

⇒案①の場合は案①で、案②の場合は案②で論説を決定する。

⇒土木学会で同様のシンポジウムがあることからその投稿状況を見て、案①か案②を採用するか 8 月上旬までに清木先生が決定する。

・平成 30 年 6 月号について：趣旨文原案 (別紙－25)

⇒連続体・粒状体を主軸とする。趣旨分をこの内容に書き換える

⇒副題をつけ、内容を絞るようにしてもよい。

⇒出版物の都合上、副題込みで 20～30 字。

⇒タイトルが固いと学生が手に取らない。

⇒総説の執筆者として、山口大学 兵藤先生、中田先生等の名前が挙がった。

5) 第 4 グループ (野原前主査・鎌田主査)

・平成 29 年 8 月号について：目次案 (別紙－26)

・平成 29 年 11 月号 (合併号) について：構成案 (別紙－27)

⇒勝見先生の提案でタイトルが「有害物質の調査と対策」から「自然由来物質への対応」に変更となった。

⇒テーマ名の変更は他の執筆者へ連絡済。

⇒趣旨分の下から 3 行目が有害物質のままとなっている。

・平成 30 年 3 月号について：趣旨文 (別紙－28)

⇒今後、向後先生と論説の執筆者を決定する。

5. 講座委員会から (小林講座幹事(前担当)・中村講座幹事) (別紙－29)

⇒10 月号が現在査読中で、H30 上の執筆者を決定、H30 下の講座テーマを次回決定すると報告があった。

6. その他

1) 次回運営委員会 (全体委員会) 予定日：平成 29 年 月 日 () 15:00～17:00
(28 年度：28.8.29)

<年間の開催予定> (年 6 回)

4 月, 6 or 7 月 (新旧), 8 or 9 月 (全体), 10 月, 12 月, 2 月

★上記の他, 研究発表会開催期間中, 会場にて打合せを開催することもあります。

参考資料 ※必ずご確認ください

- 1) 公益出版部規程 (参考資料－1)
- 2) 「地盤工学会誌」編集委員会規程 (参考資料－2) 別紙 11 と同資料
- 3) 「地盤工学会誌」掲載区分 (参考資料－3)
- 4) 「地盤工学会誌」執筆要領／執筆の手引き (参考資料－4～5)
- 5) 「地盤工学会誌」審査要領・審査結果報告書式(依頼時メール配信) (参考資料－6)
- 6) 平成 30 年の年間計画 (参考資料－7)
- 7) 発行までの標準編集工程 (参考資料－8)
- 8) 過去の特集テーマ一覧表 (2002～2018) (参考資料－9)
- 9) 優秀賞選定細則／過去の優秀賞受賞者 (参考資料－10～11) 別紙 9 と同資料
- 10) 編集の流れ (特集記事・学生記事・一般記事) (参考資料－12) 別紙 11 と同資料